

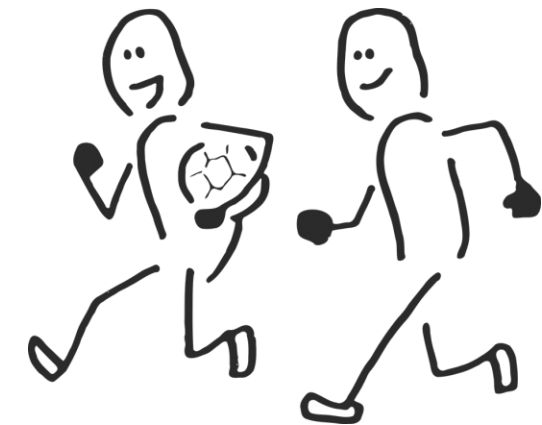


※資料のある席にお座りください。
※記録、広報用に写真撮影をしています。

開会・はじめに

多摩市協創推進室

西村 信哉



多摩市自治基本条例

平成16年(2004年)8月1日施行

前文

私たちが暮らす多摩市は、太陽の光あふれる、緑豊かなまちです。

私たちは、ここに集い、あるいは生まれ育ち、学び働き、暮らし、生涯を終え、
それぞれの歴史を刻み、文化を育んでいます。

私たちは、先人の英知とたゆまぬ努力によって発展してきた大切なこのまちを、
より暮らしやすくするとともに、次の世代へ引き継ぐために、ともに力をあわせて
自ら築いていかなければなりません。

そのためには、**市民が、市民の手で、市民の責任で主体的にまちづくりに
かかわることが大切です。**

このため、私たちは、一人ひとりの人権を尊重しつつ責任を分かち合うとともに、
**誰もがまちづくりに参画することによって、私たちのまちの自治を推進し、
それぞれの持つ個性や能力がまちづくりに発揮される地域社会の実現をめざし、
ここに多摩市自治基本条例を制定します。**

協創

令和6年(2024年)～

本日の内容

開会・はじめに（5分）

【第一部】

多摩市の「協創」の取組み状況共有（20分）

「協創」の取組みについての紹介（45分）

休憩（10分）

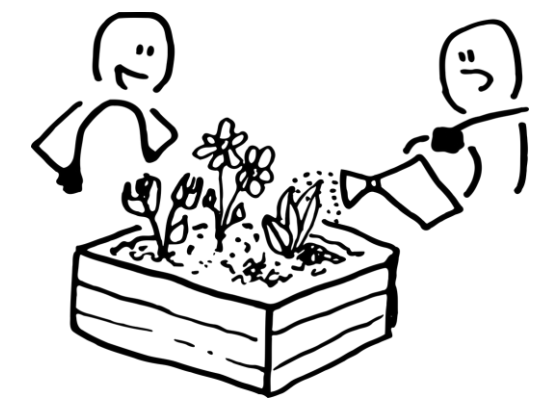
【第二部】

「ツナたま補助金」採択団体による取組み報告（65分）

【第三部】

会場内での自由懇談（20分程度）

— 16時50分終了—



「協創」の取組み状況



多摩市協創推進室

室長 田島 元

多摩市の「協創」の取組みについて

- ▶ 1 背景・課題
- ▶ 2 対応・考え方
- ▶ 3 具体的な取組み事例
- ▶ 4 市の進める環境整備

令和8年3月15日

1 背景・課題

多摩市自治基本条例

平成16年
(2004年)
施行

- まちづくりの**最高規範**
- 市民主体のまちづくり**を進めていくための**基本的な考え方**
- 市政・まちづくりへの**参画手法**
「パブリックコメント」「ワークショップ」などをルール化

参画

市民が、
まちづくりに主体的に参加し、
行動すること



協働

市民・議会・行政が、
それぞれの役割、責任のもとで、
まちづくりのために、
ともに考え、協力し、行動すること

多摩市自治基本条例

前文

第1章 総則

第2章 基本原則

第3章 情報の共有

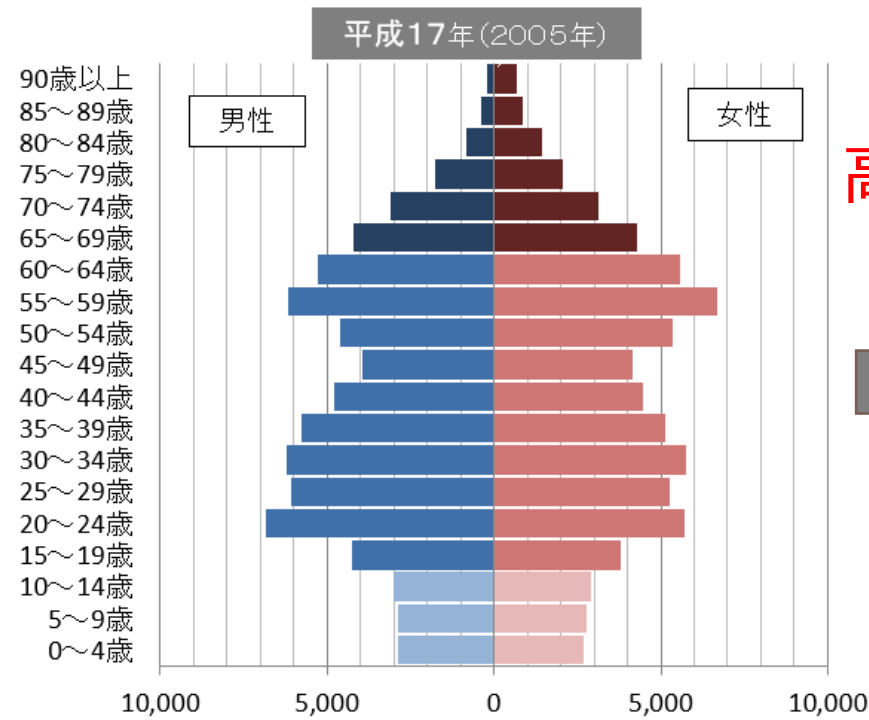
第4章 参画・協働・協創

第5章 住民投票

第6章 自治推進委員会の設置等

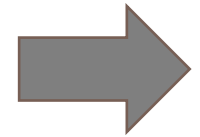
1 背景・課題

2005年(国勢調査)

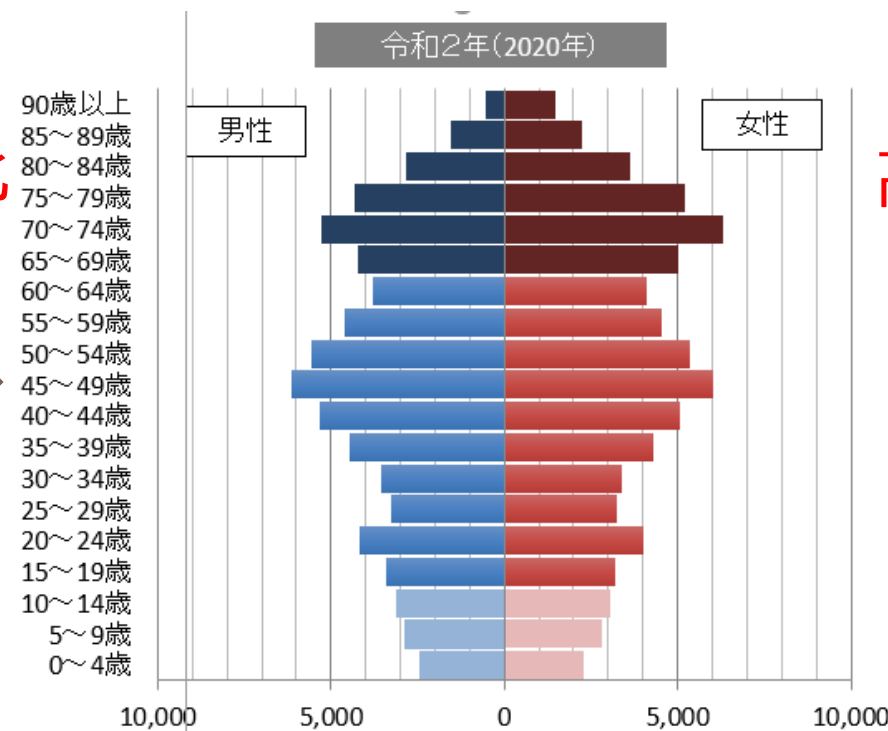


高齢化率 15.8%
人口 145,877人

高齢化
進行

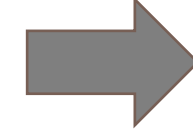


2020年(国勢調査)



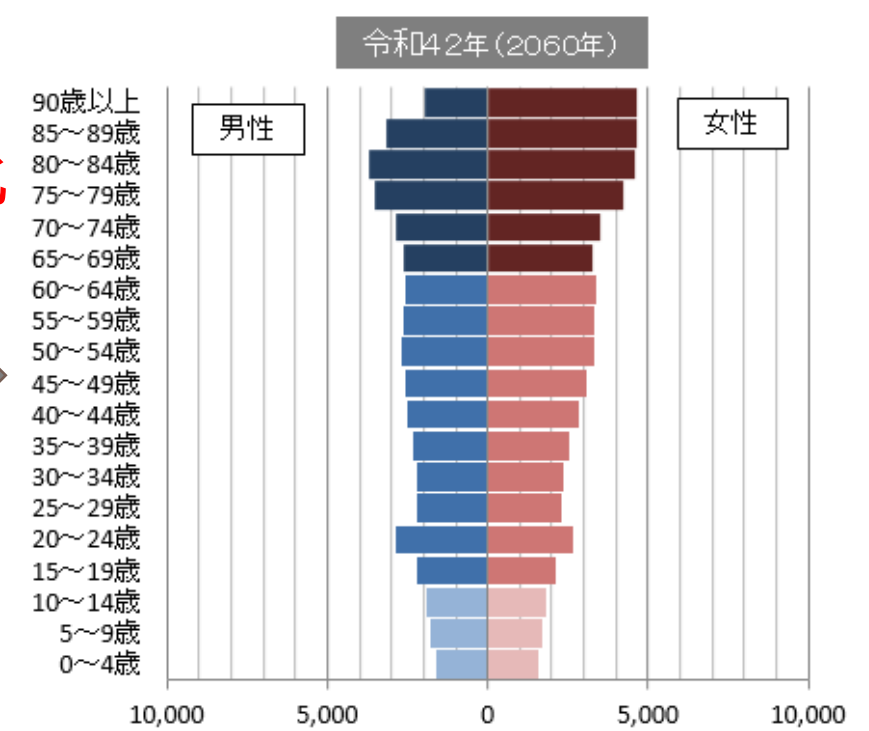
高齢化率 29.0% ↗
人口 146,951人 →

高齢化
進行



人口
減少

2060年(社人研推計)



高齢化率 40.4% ↗
人口 105,969人 ↘

- 高齢化の進行
- ライフスタイルや働き方の多様化 + ● コロナ禍
- 地域が抱える課題の多様化・複雑化

取組むべき
課題

第五次多摩市総合計画第3期基本計画

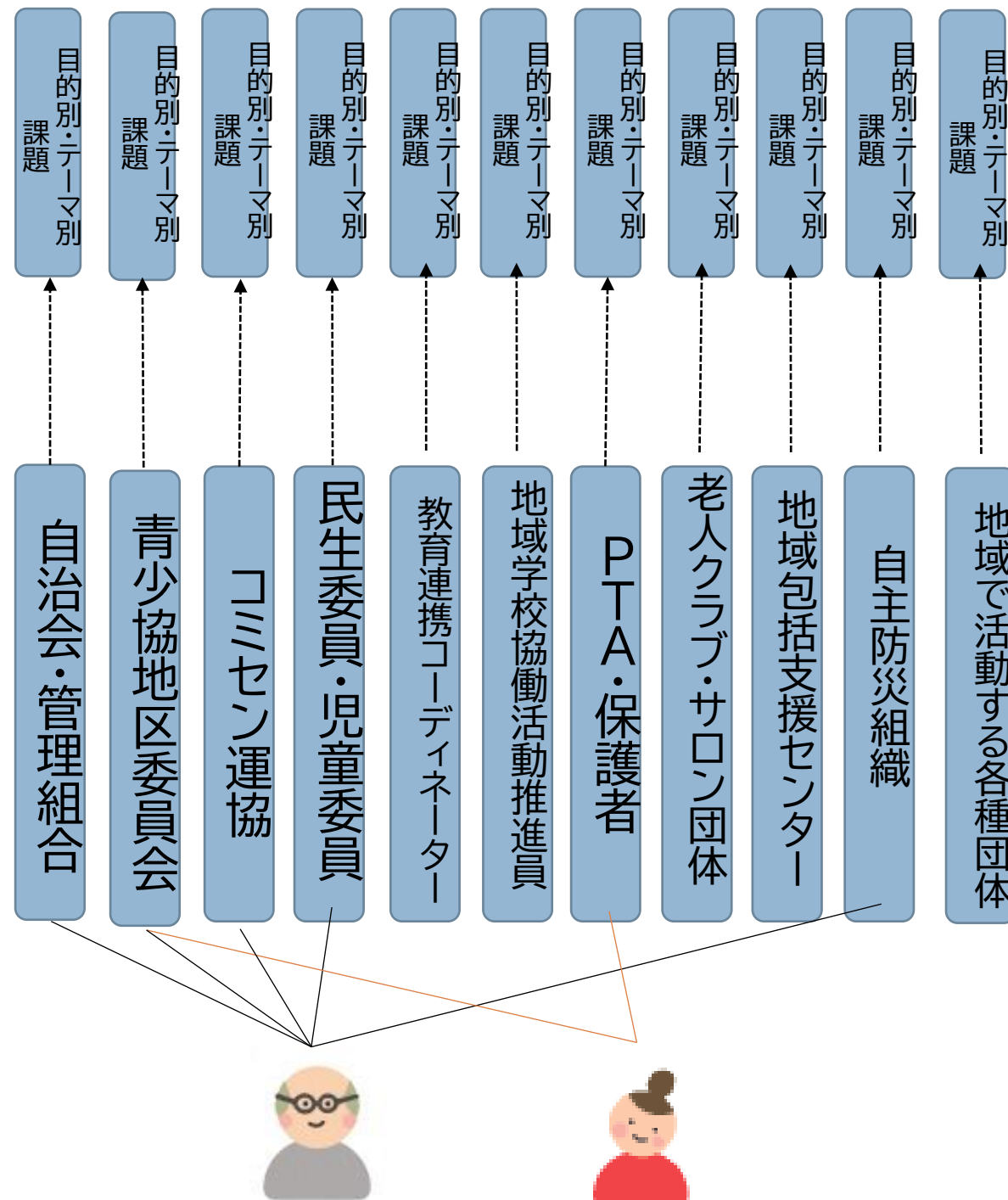
「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」

※国でも同様の議論

2 対応・考え方

現状

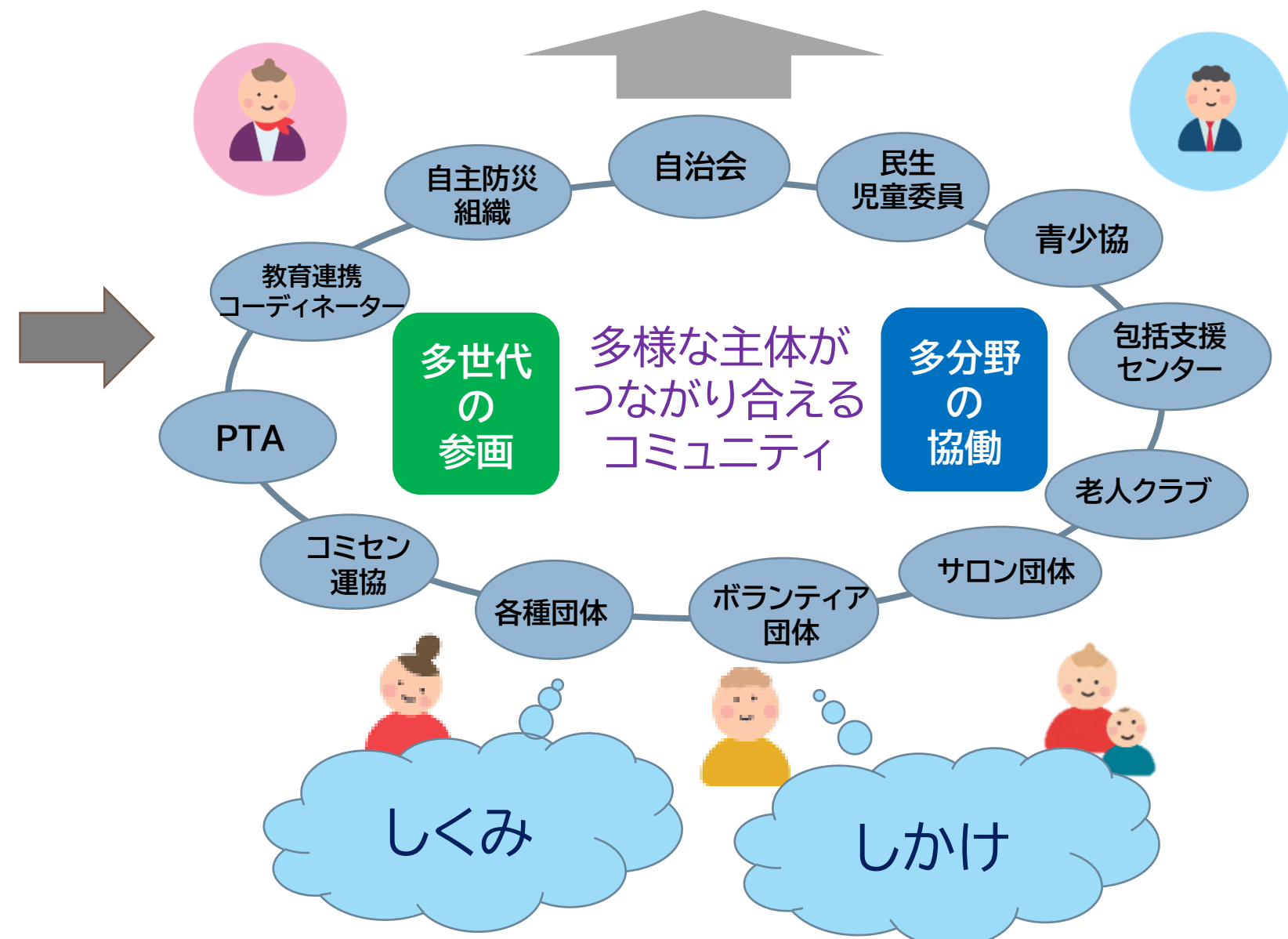
行政:分野ごとに対応、庁内連携不足
市民:リーダー層の重複、担い手不足



将来

行政:横断的に対応、庁内で情報共有
市民:プレーヤー層の拡大、楽しみながら

課題解決、地域の魅力や価値の創造



2 対応・考え方

協創

とは

自治基本条例に盛り込みました

多世代の参画

- 子どもたち（小中学生）
- 若者（高校生、大学生、社会人）
- 現役世代・子育て世代（30代～50代）
- シニア世代（60代～）



多分野の協働

- コミュニティの醸成、地域の活性化
- 子育て、高齢、障がい、生活困窮者対策
- 教育、青少年の健全育成
- まちづくり、環境との共生



多世代にわたる参画
多分野における協働

が創出されることで、

誰もがつながり合える(多世代共生型)コミュニティ

が生まれ、これが広がりをもつことによって、

様々な地域課題の解決 +
新たなまちの魅力や地域の価値が創造

されること

市の執行機関による必要な環境整備（地域で協創を実現するためのしくみ・しかけづくり）

地域を「支える」

地域を「つなぐ」

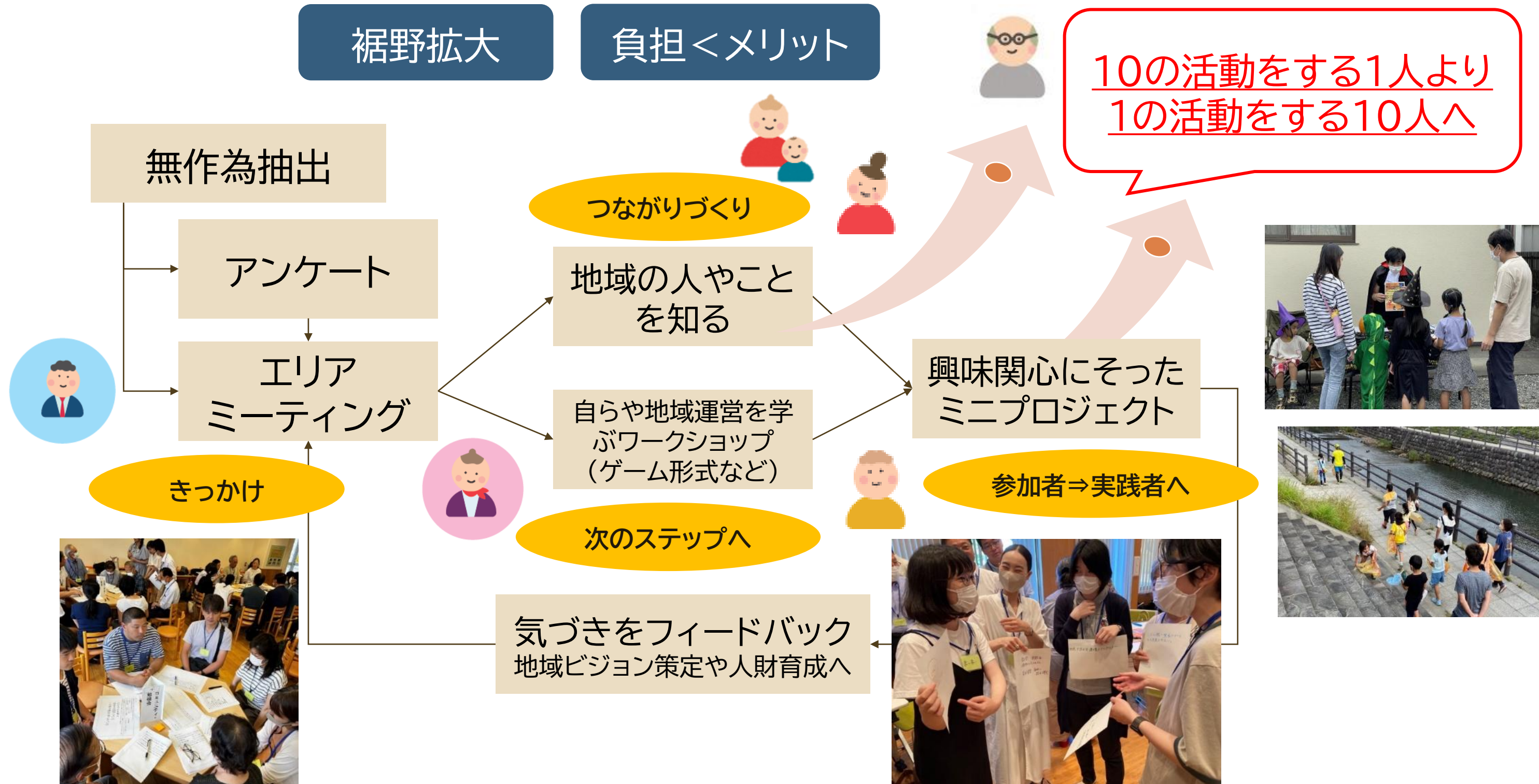
地域の中で「掘り起こす」

3 具体的な取組み事例

2020年に東寺方小エリア居住者への無作為抽出アンケート

538名から回答

・地域活動に関心がある50%、そのうち現在参加中は10%。



3 具体的な取組み事例

地域のつながりに関する参加者の声



様々な年代、背景を持つ方と話すことで、自分と違う感覚や意見を聞いて面白かった

無作為抽出によるエリアミーティング



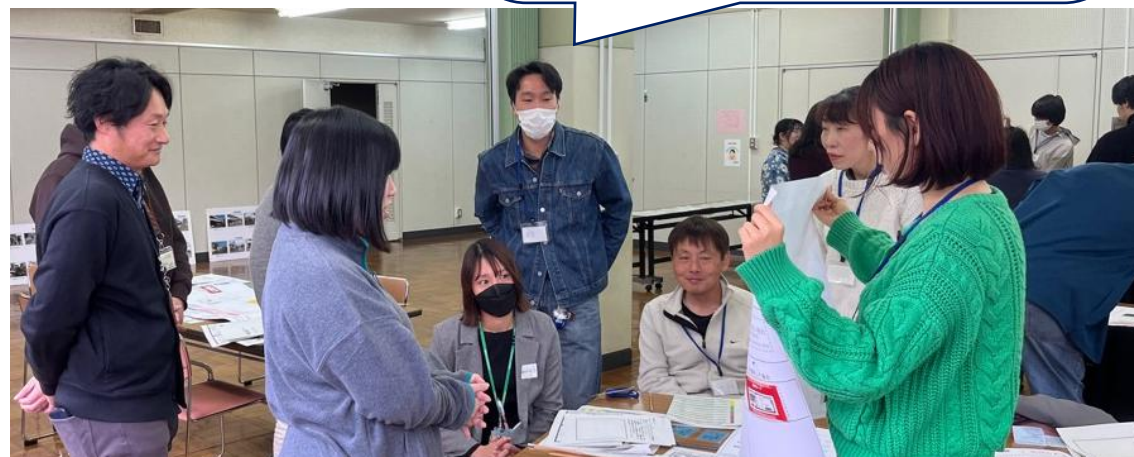
「多世代・つながり」

エリアミーティングを通じて、新たな活動が生まれたり、既存の活動に参加してくれる若い人材が出てきてもらいたい

住民主体の活動実施

「ウェルビーイング」

市の未来について話し合えて、とても考えさせられた。もっと多摩市や地域を盛り上げていきたい。同じ想いの人とつながりたい



無作為抽出によるエリアミーティング

「セーフティネット」

普段交流することのない市民・職員と一緒に活動できて、貴重な体験ができたいざというときにも安心



多主体による活動試行

「将来に持続可能」

多様な世代の参加者がいて、この地域らしい拠点をつくれたら

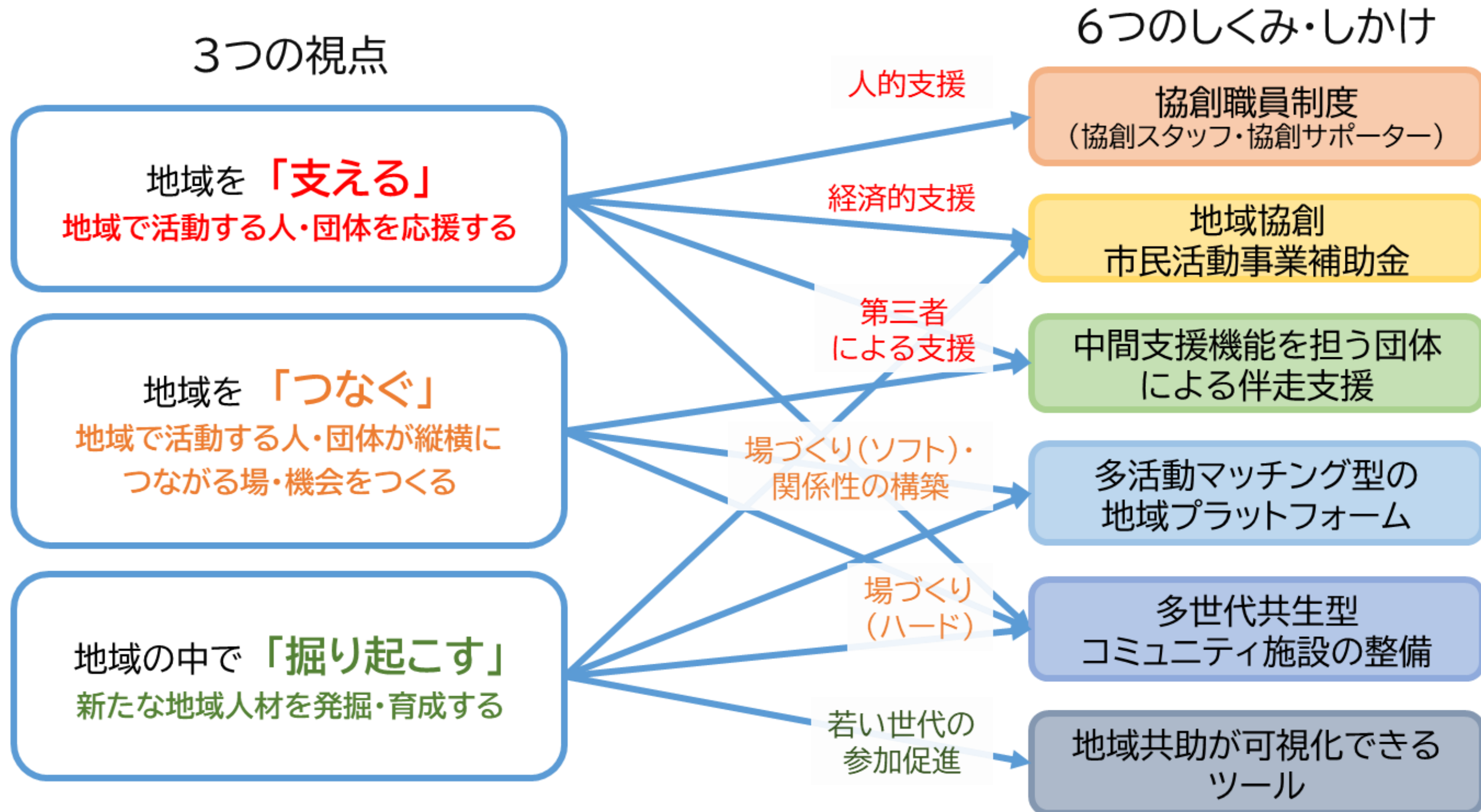


複合施設ワークショップ

4 市の進める環境整備



地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくり (R7~)



4 市の進める環境整備

協創職員制度の導入

地域を「支える」

■協創職員制度

●協創スタッフ (R6～ 協創推進室職員18名)

■協創スタッフとしての職務内容

- 地域を**支える** (≡アドバイス)
 - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
 - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ** (≡コーディネート)
 - 地域の会議に参加し、関係づくり
 - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす** (≡プロデュース)
 - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
 - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり



地域のみなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

●協創サポーター

■協創サポーター研修制度(若手職員)

- 若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る(コミュニケーション、ファシリテーション能力)
⇒令和7年度は昨年度継続10名と2年目全職員 (34名)
※1年目職員も年1回地域で実習(53名)

97名

●協創シニアサポーター (構想中)

- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討



組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

地域の方が好意的に接してくれた。地域や現場の理解が深まった



11/15トムハウスまつり

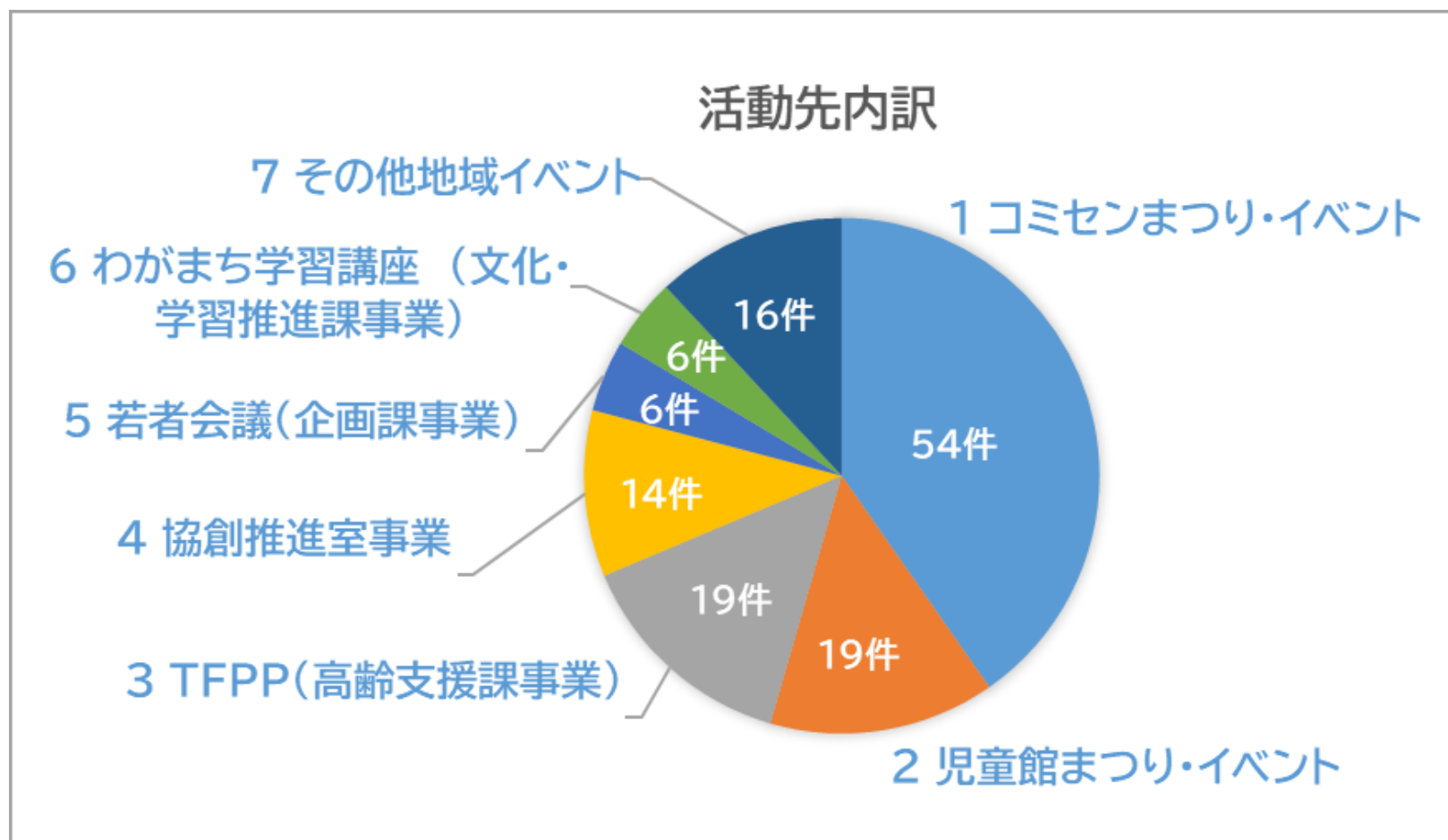
4 市の進める環境整備

協創職員制度の導入

地域を「支える」

■協創サポーター活動先

約8割が、4回の活動のうち複数回、連続性のあるイベントへ参加



■気づき、得られたこと

普段の業務では知り得ない地域の取組みを知ることができた

「知る」

地域の人といい関係を築くことができた。地域に貢献できた

「つながり」



業務に関わる知見やネットワークを得た。能力向上(コミュニケーション・ファシリテーション)ができた

「学び」

■課題、改善点

「継続性」

地域の方と顔と名前が一致できると尚よかった

「事前情報」

受け入れる地域側の事前の理解や声掛けの工夫や改善を

体力作業が多かった。行事によって内容や作業時間にばらつきあり

「ばらつき」

4 市の進める環境整備

地域協創市民活動事業補助金（ツナたま補助金）

地域を「支える」・地域の中で「掘り起こす」



新たなつながりづくりを多摩市が全力で応援！

【募集期間】

6月2日(月) ~ 7月31日(木)

【対象事業】

【ツナコース】 上限50万円 1件
分野横断的な地域共助の可視化につながる事業

【たまごコース】 上限5万円 5件
多世代・多分野につながるきっかけを新たに創出する活動

■応募

【ツナコース】

4件



■採択

【ツナコース】

1件

【たまごコース】

9件



【たまごコース】

5件

4 市の進める環境整備

地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)

地域を「支える」・地域の中で「掘り起こす」

新たな活動のきっかけ

やってよかった。
参加者の笑顔が嬉しい

地域のニーズや課題を
知る機会になった

職員の伴走のおかげで、関係部署と課題感を共有し、有意義な情報交換ができた

●(つながる多摩)つなたま掲示板

10月~1月 掲示板に掲載



●安心してきてね。
多胎児、年子 予約休憩室
10/25 ハロウィン 予約休憩室



●地域のだれもが
「やってみよう！」ができる場所
12/7 つながりマルシェ
1/17 新年祭



●地域の音楽愛好家を結ぶ、
オープンマイクイベント
10/26 イベント実施



9月10月 映画上映会
11/1焚き火 11/8 0円ショップ
11月~1月 勉強会・ワークショップ

●地域活動の必要性の理解を
求めて-自己変容と価値観共有-



後ほどご登壇

11/8 まちあるき
●諏訪・永山れきし散歩



【ツナコース】

【たまごコース】

4 市の進める環境整備

中間支援機能を担う団体による伴走支援

地域を「支える」・地域を「つなぐ」

■ 中間支援機能を担う第三者が伴走しながら地域を支援・つなぐ

● 地域発の多様な活動を

- ⇒ 協創スタッフによる、アドバイス、コーディネート、プロデュース
- + 中間支援機能を担う団体のもつネットワークなどで実現していく



現在は

- 中央大学国際経営学部中村ゼミ
- MichiLab(若者会議)
- コミュニティネットワーク協会

と連携して活動中

後ほどご登壇

○ 市民でも行政でもない立場から「支える」

○ プロジェクトや活動を通じて、地域にある資源を
縦（多世代）や横（分野横断）に「つなぐ」

4 市の進める環境整備

多活動マッチング型の地域プラットフォームづくり

地域の中で「掘り起こす」・地域を「つなぐ」

■ 様々な活動と人や地域資源をマッチングできるプラットフォーム

- 多世代が参加する場 「エリアミーティング」 の開催（交流・対話）
- 人同士、団体同士のマッチング（実践へ）
- 地域の課題、活動組織・団体のあり方検討

「掘り起こし」



交流・対話

「つなぐ」



実践

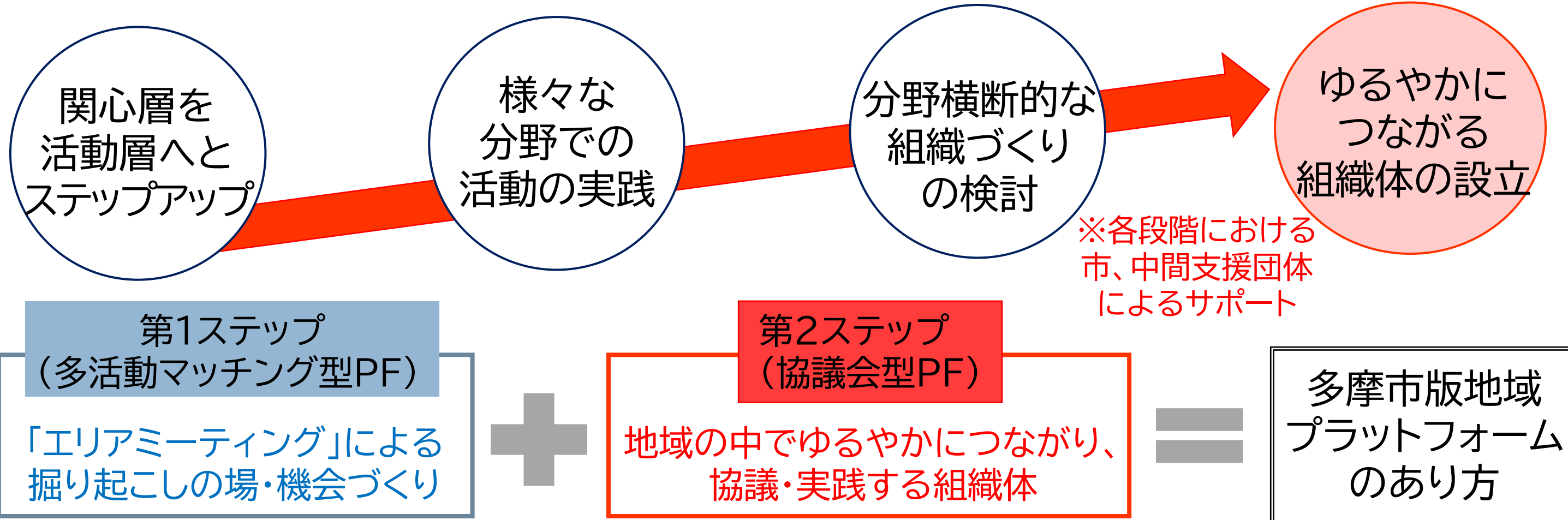
関心層
の発掘

4 市の進める環境整備

多活動マッチング型の地域プラットフォームづくり

地域の中で「掘り起こす」・地域を「つなぐ」

※PF:プラットフォーム
(横断的な場・機能、組織)



委員会提言

特定の地区(分野ごとのPFが複数あり、リーダーが重複、担い手不足)において、「多活動マッチング型PF」と「協議会型PF」の二層のPFの特徴を活かした連携・協力体制を構築してはどうか

※地区ごとの実情や個人ごとの関心・ライフステージによって、多様な連携・協力体制の構築のあり方が考えられるため、プラットフォームの形態や進み方は柔軟に検討を進める

自治推進委員会からの
中間答申

4 市の進める環境整備

多世代共生型コミュニティ施設の整備

地域を「支える」・地域を「つなぐ」・地域の中で「掘り起こす」

現在の
状況、整備
に向けた
考え方等

豊ヶ丘

整備方針策定(令和7年3月)
現施設は解体し、平屋で**建替え**とする

○基本理念
「地域ニーズに柔軟に答え、
多世代が集い、学び、つながる、
豊ヶ丘の地域拠点」

遊び場、滞留空間が効果を発揮。
居場所や賑わい空間が欲しいとの声

住民対話を踏まえ検討

- ・施設コンセプト
- ・機能、サービス
- ・運営方法 など

①9/6(48名) ②2/7(37名)

③6/6

+10月ランタンフェスでの社会実験

R7年度
実績

諏訪

現施設は老朽化が著しく進行し、耐震基準を満たしていないことから、なるべく早期に、**仮施設に移転**し、当面の間は、地区市民ホールとして運営。

近隣の都営団地建替え、UR団地再生の状況を踏まえ、**今後の施設像を要検討**。

東京都と、仮施設 移転先整理
住民説明会(計91名)

関係機関との将来施設の検討

東寺方

再編後もコミュニティ施設(既存のコミュニティセンターを補完するコミュニティ会館)として整備する。

地域の人口構成、ニーズに柔軟に対応できるような運営形態の導入についても、**地域の意向をふまえながら検討**

現在「地域協議会」において
ハード面、ソフト面
での整備の方向性
について検討中



4 市の進める環境整備

■ モデルエリア(貝取・豊ヶ丘地区)での検討・実践 令和11年度までの取組み



R8～モデルエリアで
試行的運用を

	～R6	R7	R8(前半)	R8(後半)	R9	R10	R11
(関連事項)		自治推進委員会 中間答申		自治推進委員会 答申	複合施設 閉館予定		工事完了予定
③協議会型 プラットフォーム 形成						地域横断的プラットフォーム ・地域運営組織の検討・実践	
②多世代共生型 コミュニティ 施設整備				組織 検討 施設 検討		施設(ハード+ソフト)の検討	
①多活動 マッチングによる 人材発掘・育成	エリアミーティングや 職員(スタッフ、サポーター)伴走 ・中間支援・ツナたま補助金等による発掘						地域主体の運営 地域の担い手発掘
		基本計画策定支援				地域全体の管理運営検討 ①地域人材の掘り起こし(人材育成) ②多世代共生型コミュニティ施設の運営体制づくり ③協議会型プラットフォーム(組織)づくり	
	中間支援機能委託						

4 市の進める環境整備

地域共助が可視化できるツールの導入

地域の中で「掘り起こす」

■地域の共助活動が可視化できるツール(地域ポイント・地域通貨)の導入

ITツールを活用し、地域参加をポイント化するなど、可視化できるしくみをつくり、そのポイントを、地域通貨などで地域で使用できるしくみを導入することにより、大学生や若い世代の参加促進につなげる

主なキーワード

- DX活用
- 楽しむ、誘い合わせる
- できるときにできる範囲で、無理なく

検討・情報収集

4 市の進める環境整備

高校・大学との連携



地域とともに学び、育つ機会を

後ほどご登壇

多摩大学附属聖ヶ丘高校

探究学習

1年生：地域調べ「思考」

2年生：多摩市をフィールドにしたゼミ活動
「思考から実行」

- 1 団地の活性化(販売イベント)
- 2 PR(映像・ポスター制作、SNS運営)
- 3 スポーツイベント運営
- 4 市民のための条例策定
- 5 環境美化運動
- 6 公民館の活用
- 7 高齢者支援
- 8 災害対策(ハザードマップ、啓蒙運動)

他にも

- 大妻多摩高校
- 大妻女子大学
- 中央大学

など

4 市の進める環境整備

情報共有

■広報シリーズ記事

「地域協創のすすめ」

■中央図書館企画展示

～4/1まで 1階エントランス脇

■協創フォーラム（本日）

【活動報告】市や活動者からの取組み紹介

【成果発表】ツナたま補助金採択団体による成果発表

■地域デビュー手引書

2025年度作成版 市民活動団体紹介編

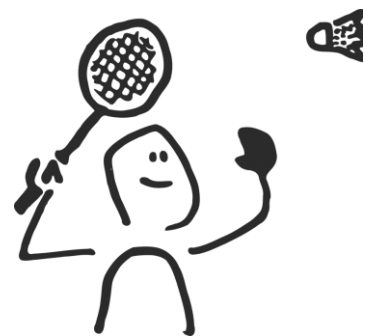
⇒市公式HPに掲載



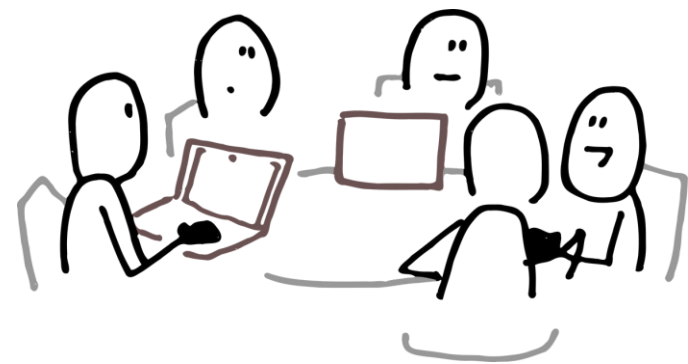
**協創
フォーラム**

令和8年3月15日(日)
14時から16時30分
.....
多摩市立中央図書館 活動室1

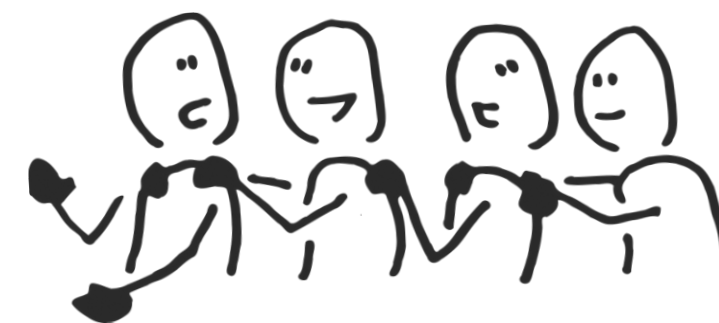
担当 : 多摩市 協創推進室
042-338-6803
kyoso@city.tama.tokyo.jp

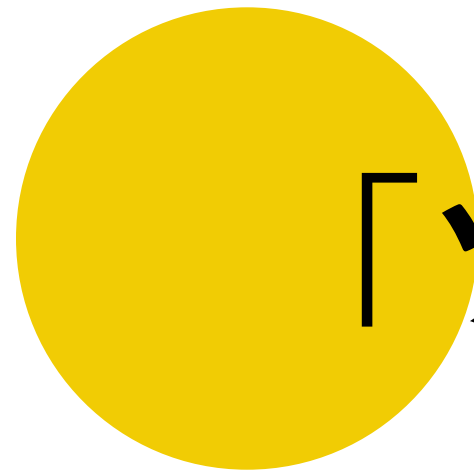
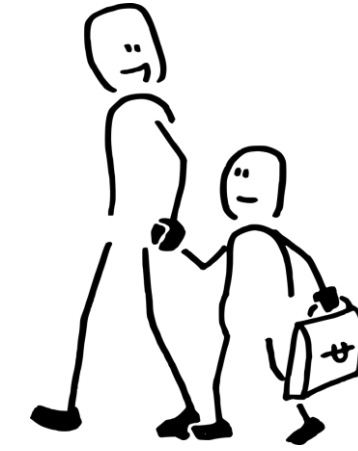
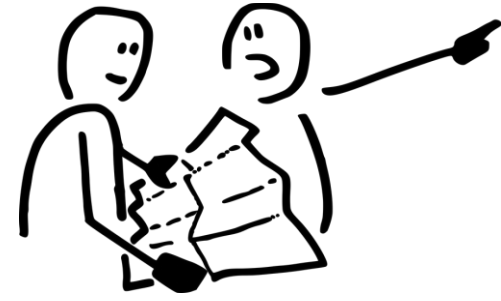


「協創」の取組みについての紹介

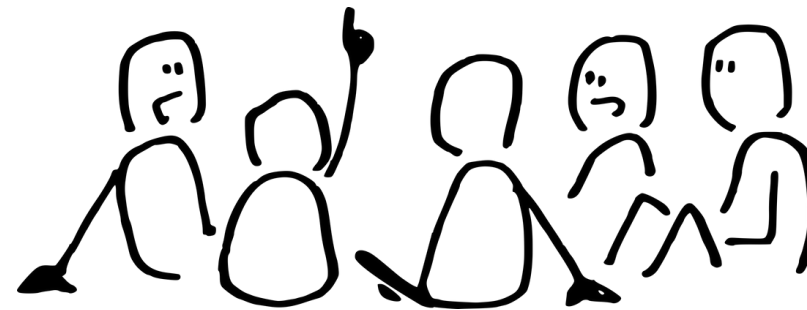


休憩





「ツナたま補助金」採択団体 による取組み報告



会場内での自由懇談

16:50まで

